

**宝塚市ゆかりのアーティストを毎年1名ずつ紹介する『Made in Takarazuka』シリーズの第2弾
企画展「中辻悦子展 —WHO IS THIS ^{だあ}あなたは、誰れ—」開催****2021年9月4日（土）～ 10月11日（月）****宝塚市立文化芸術センター（宝塚市武庫川町7-64）**

宝塚市立文化芸術センター（所在地：兵庫県宝塚市/館長：加藤 義夫）は、宝塚市在住の現代美術家・中辻悦子の個展「中辻悦子展 —WHO IS THIS ^{だあ}あなたは、誰れ—」を、9月4日（土）～ 10月11日（月）の期間、開催いたします。

中辻悦子は、絵画や、版画、絵本、インスタレーションなどを表現媒体としているアーティストです。本展は中辻の多様な創作の思考や表現を紹介する大規模な個展です。1960年代から作家活動を始め、第12回現代版画コンクール大賞受賞、絵本「よるのようちえん」で第17回ブラティスラヴァ世界絵本原画展グランプリ受賞、宝塚市制60周年記念文化功労者表彰、兵庫県文化賞を受賞し、2001年より宝塚市大使を務めています。



中辻悦子「フローティング」
1982年～2021年制作



中辻悦子「無題」2019年制作

▼『Made in Takarazuka』シリーズについて

宝塚市立文化芸術センターは、宝塚市内のアーティストにスポットを当てることを目的に、2020年度から宝塚市ゆかりのアーティストを毎年1名ずつ紹介する『Made in Takarazuka』シリーズを展開しています。

（第一弾は、2020年11月14日（土）～ 12月20日（日）に開催した展覧会「辻 司 七〇年の絵路 —メアンドロの光芒—」。）

《報道関係者お問い合わせ先》

宝塚市立文化芸術センター 広報事務局（TMオフィス内）担当：馬場・清水・西坂

TEL：06-6231-4426 FAX：06-6231-4440 E-mail：takarazuka@tm-office.co.jp

宝塚市立文化芸術センター ホームページ

URL：<https://www.city.himeji.lg.jp/art/>



開催概要

タイトル：Made in Takarazuka vol.2 「中辻悦子展－WHO IS THIS？ ^{だあ}あなたは、誰れ？－」
会 期：2021年9月4日（土）～10月11日（月）
休 館 日：毎週水曜日
開館時間：10：00～18：00（入館は17：30まで）
会 場：宝塚市立文化芸術センター2Fメインギャラリー
（〒665-0844 兵庫県宝塚市武庫川町7-64）
公式WEBサイト <https://takarazuka-arts-center.jp>
観 覧 料：一般（高校生以上）800円、中学生以下無料
※障がい者手帳提示でご本人様、付添の方1名まで無料
問い合わせ：宝塚市立文化芸術センター TEL:0797-62-6800
主 催：宝塚市立文化芸術センター（指定管理者：宝塚みらい創造ファクトリー）
後 援：神戸新聞社

【関連事業】

○出品作家によるギャラリートーク

2021年9月18日（土）14時から14時30分

会場：宝塚市立文化芸術センター2階 メインギャラリー

※予約不要、要観覧料

○パートナーズサロン 対談「宝塚と中辻悦子」

中辻悦子×加藤義夫（宝塚市立文化芸術センター 館長）

2021年9月18日（土）15時から16時

会場：宝塚市立文化芸術センター ガーデンハウス

※定員20名 要予約、パートナー（有料会員）限定。

入場時に、パートナーの会員証をご提示ください。

パートナー入会については、当センターWEBサイトをご確認ください。

※予約方法 受付開始2021年8月19日（木）10時から

お電話でのお申込み：0797-62-6800（10時から18時、水曜休館除く）

メールでのお申込み：event@takarazuka-arts-center.jp

- ① イベント名
- ② 氏名
- ③ ご連絡先
- ④ 宝塚市立文化芸術センターの個人情報の取扱いに同意する。

以上の情報をご記載の上、件名を「イベント申込」として送信ください。

プロフィール

中辻悦子

Etsuko Nakatsuji

1937 大阪府泉北郡高石町(現高石市)生まれ

1955 株式会社阪神電鉄百貨店部に入社

1960 宝塚市伊子志亥の谷に居住。

1962 阪神百貨店宣伝課を一時退社、
創作活動に入る。

1966-67 夫、元永定正に同行しニューヨーク
に滞在

1969-82 阪神百貨店宣伝課に復帰

1982-2020 草月流家元教室（大阪）造形科の講師を
つとめる



受賞歴

1962 第15回芦屋市展で教育委員会賞受賞

1963 朝日広告賞百貨店部門賞受賞

1991 「もけらもけら」が第14回日本の絵本賞受賞

1998 第12回現代版画コンクール展で大賞受賞

1999 絵本「よるのようちえん」が第17回ブラティスラヴァ
世界絵本原画展でグランプリ受賞

2001 平成12年度亀高文子赤艸社賞受賞

2003 第57回神戸新聞文化賞受賞

2004 宝塚市制50周年記念文化功労章受章

2013 平成25年度日本博物館協会顕彰者の表彰を受ける

2014 宝塚市制60周年記念文化功労者表彰を受ける

2015 兵庫県文化賞受賞

2001～ 宝塚市大使に任命される

展覧会構成

第1章 「人形（ひとがた）」

人形はひとがたと読みます。中辻は、アーティスト元永定正と生活をともにし、所狭しと作品が増え続けていく中で、天井という自分を表現できる空間を見つけました。本展では、300体ものポコ・ピンとフローティング（漂う）作品50体を展示。場所に束縛されずに、作品たちは縦横無尽に存在します。



中辻悦子「フローティング」
1982年～2021年制作



中辻悦子「ポコ・ピン インスタレーション」

第2章 「ひとのかたち」



中辻悦子「合図-eyes-「顔色」
ブルー」2009年制作

シンプルなラインで描き出された人物像。穴の空けられたような、永遠なるまなざしからは、社会を読むAttitude（態度）が感じられます。日本社会における女性への圧力ある空気感のみならず、言葉を発することがはばかれる空気感は、現代社会において、男女を問わず一層重くのしかかっているように思われます。



中辻悦子「無題」2019年制作

展覧会構成

第3章 「木のかたち」

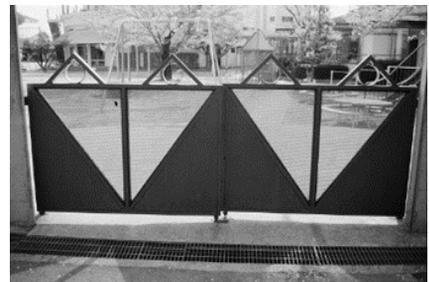
木という素材を中辻は、彫刻家のように木を刻むのではなく、木片を継ぎ足して描くようにかたちづくっていきます。ひとつのひとつのパーツは人や家のように見えます。それらが集まり、まち並みのようにも見え、社会の風景を写し出しているようです。



中辻悦子「きのかたち・しかく」
2019年制作

第4章 絵本とデザイン

アーティスト林勇氣氏の協力で、よるのようちえんが映像で登場。キャラクターたちが動き出します。また中辻悦子のアイデアスケッチや絵本のために取材した写真などをスライドショーでご紹介します。アイデアスケッチは時には、小さなメモ用紙に描かれています。中辻の創作活動は、日常から切り離された専用のアトリエでもなく、日常生活の合間に見つけられた自分だけの自由な時間と空間で行われます。社会と日常を行き来しながらのNew Normal（新しい日常）を実践していたといえるでしょう。



よるのようちえんのために／1997年頃
撮影：中辻悦子

《報道関係者お問い合わせ先》

宝塚市立文化芸術センター 広報事務局（TMオフィス内）担当：馬場・清水・西坂
TEL：06-6231-4426 FAX：06-6231-4440 E-mail：takarazuka@tm-office.co.jp

宝塚市立文化芸術センターWEBサイト
URL：<https://takarazuka-arts-center.jp>



◀ アクセス
QRコード